

著者紹介

蒲谷 嘉代子 Kabaya Kayoko

名古屋市立大学大学院医学研究科 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 講師、医学博士

2001年名古屋市立大学医学部卒業、2012年名古屋市立大学大学院医学研究科博士課程修了、2001年名古屋市立大学病院臨床研修医、2002年以降名古屋第二赤十字病院、春日井市民病院、豊田厚生病院、名古屋市立大学病院にて耳鼻咽喉科医師として勤務、2014年名古屋市立大学大学院医学研究科耳鼻咽喉頭頸部外科助教、2021年名古屋市立大学大学院医学研究科耳鼻咽喉頭頸部外科講師 現在に至る

研究歴と現在の専門分野：2006年耳鳴外来を担当するとともに耳鳴の臨床研究を開始、2008年名古屋市立大学大学院に入学後より、慢性めまい、前庭リハビリテーションの研究を開始、学位取得後も、慢性めまい、前庭リハビリテーション、前庭機能検査、慢性耳鳴などを専門分野として研究継続

所属学会：日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会、日本めまい平衡医学会、日本聴覚医学会

尾崎 紀夫 Ozaki Norio

名古屋大学大学院医学系研究科精神疾患病態解明学特任教授、医学博士

1982年名古屋大学医学部卒業、1982年社会保険中京病院研修医、1984年名古屋大学病院精神科医員、1987年中部労災病院精神科医師、1990年名古屋大学医学部にて医学博士号取得(3月26日:第1792号)、1990年ロータリー財団奨学金を得て米国国立精神保健研究所(NIMH) visiting fellow、1995年藤田保健衛生大学医学部精神医学教室講師、1998年藤田保健衛生大学医学部精神医学教室教授、2003年名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野・親と子どもの心療学分野教授、同病院精神科・親と子どもの心療科科長、2018年同病院ゲノム医療センター長、遺伝カウンセリング部門長、2019年同大学脳とこころの研究センター長、2022年同研究科精神疾患病態解明学特任教授 現在に至る。公職：第25-26期日本学術会議会員・第二部副部長(2023年より)、AMEDゲノム医療実現推進プラットフォーム事業プログラムオフィサー(2016年より)、厚生労働省保健医療専門審査員(2020年より)など。

研究歴：一貫して「精神科領域で生じる日々の臨床疑問の解決」とともに、「精神疾患の病態を解明し、病態に即した診断、治療・予防法の開発」を目指しており、自閉スペクトラム症、統合失調症、双極性障害、うつ病、認知症、摂食障害など、多様な精神疾患の診断・治療法や病態を、生物心理社会的な観点から研究しています。

研究領域：ゲノム医学、疫学、産業精神保健、時間生物学、臨床精神薬理、神経科学、リエゾン精神医学など。

所属学会：日本精神神経学会、日本うつ病学会、日本人類遺伝学会

浅田 義正 Yoshimasa Asada

医療法人浅田レディースクリニック 理事長、医学博士

1982年3月名古屋大学医学部医学科卒業、1989年10月公益社団法人日本産科婦人科学会 産婦人科専門医、1991年5月名古屋大学医学部附属病院産婦人科、1992年7月医学博士、1993年1月米国ヴァージニア州、イースタンヴァージニアメディカルスクール、ジョーンズインスティテュートに留学、1995年5月精巣から採取した精子(TESE)を用いたICSIによる日本初の妊娠例の報告、2004年4月浅田レディース勝川クリニック開院、2010年4月浅田レディース名古屋駅前クリニック開院、2018年6月浅田レディース品川クリニック開院

研究歴と現在の専門分野：1993年の顕微授精の研究に始まり、2008年よりAMH(アンチミュラーリアホルモン)の測定開始、2012年より全胚凍結実施等、不妊治療の先進的取り組みを実施し続けている。世界初、純国産のAI搭載のタイムラプスインキュベーターの共同開発等も手掛け、最近ではniPGTの発表も多い。ASRM(アメリカ生殖医学会)では、9年連続で演題が採択されると得られるASRM STAR AWARD賞を2019年の開始以来、受賞し続けている。著者は多数あり、最近では講談社ブルーバックスより「不妊治療を考えたら読む本(最新版)」が刊行された

所属学会：日本産科婦人科学会、日本生殖医学会、日本受精着床学会